

平成 31 年（2019 年）4 月市長定例記者会見の概要と質疑応答

平成 31（2019）年 4 月 3 日
午前 11 時～午後 0 時 4 分
大会議室（4 階）

1 発表事項

(1) 「みちレポかしわざき」の運用を開始 スマートフォンを使ってまちの課題を解決 (主管：維持管理課)

通常、車で走っていたり、歩いていた、それから自転車で走行していたりする中で、道路に穴が開いていたり、側溝のふたが欠けていたり、道路の照明が切れていたりなど、気付くことがあると思います。今までは市役所に電話をしていただくか、直接お知らせいただき、維持管理課で対応してきたところですが、今時ですので、スマートフォンのアプリケーションを使って市民の皆さんからお知らせをいただくというシステムの運用を開始しました。この 4 月 1 日から試験運用を、5 月 1 日から本格運用します。「Fix My Street Japan（フィックス マイ ストリート ジャパン）」という無料のアプリケーションを使用します。妙高市ではニックネームを付けて運用していると聞いています。柏崎でも「みちレポかしわざき」という名前で運用していきます。誰でも、いつでも 24 時間 365 日通報可能です。ただし、職員の対応は平日の勤務時間です。夜間、休日に関しては、市役所の代表で連絡を受け、営業時間の中で対応します。緊急を要する時は、これ以外の部分で対応していきたいと考えています。先ほど正副議長にもこの会見に先立って説明を申し上げたところですが、町内会長の皆さんへの周知についての要請もあり、この会見の後、担当課から周知していきたいと思っています。ちなみに除雪に対応するシステムではありません。また、基本的に市道が対象になりますが、県道や国道に関する情報は排除いたしません。担当から県また国の担当者に連絡いたします。ただ、日常的な業務がパンクしてしまうようなことがあっては困る訳ですが、妙高市の実態をうかがうと、初期段階は多数の情報が寄せられたものの、時間の経過とともに落ち着くと伺っていますので、状況の推移を見ながら運用していきたいと考えています。

(2) 路線バスを活用した買物支援等の取り組みをスタート

(主管：企画政策課)

1 点目は買物支援のバスの試験運行をさせていただきます。越後交通株式会社、公益社団法人柏崎市シルバー人材センター、柏崎市公共交通活性化協議会との共同事業で買物支援のためのバスを運行します。4 月 18 日を初回として来年までの 8 回、スーパーマーケッ

トなどが無く、高齢者の多い柏崎市の西部方面を対象に柏崎駅谷根線で運行します。路線バスを活用した買物支援に関しては、これまで越後交通株式会社との協議を進めてきたところですが、バス内での高齢者の転倒などの事故対策と運行時間の保持が課題として挙げられ、具体化に至っていなかったところです。公益社団法人柏崎市シルバー人材センターによるバスの乗り降り、車内、買い物のサポートの介助ボランティアとして協力をいただけることとなり、運行開始の運びとなりました。

2点目は西部地区路線の経路の変更です。東本町一丁目のフォンジェの前を経由する運行経路に変更します。昨年8月17日のイトーヨーカドーの閉店を受け、西部方面からのバス利用者の利便性向上を図る目的で、すでに運行を開始しているところです。

3点目は高齢者の割引回数券の販売店舗拡大です。これまでの越後交通柏崎営業所と駅前案内所の2か所だったものを、4月から新たにフォンジェの花田屋、市役所売店、柏崎総合医療センター内のファミリーマート、MEGA ドン. キホーテ柏崎店の4店舗の合計6店舗に拡大しました。なお、10月1日から65歳以上の方は高齢者割引により運賃が半額になることに伴い、新たな回数券を発売することとしています。

(3) ウェルカム柏崎ライフ応援ゲームを制作 —若者のUターンのきっかけに

(主管：元気発信課)

どこの自治体もU・Iターンの促進に取り組んでいるところです。これまでも柏崎へのU・Iターンということをさまざまな場所や場面で呼びかけてきているところですが、市役所の若手職員によるプロジェクトチームが、楽しみながら柏崎の魅力に触れることでUターンのきっかけにつなげるボードゲームを制作しました。5月3日の新成人フェスティバルで紹介をします。また、東京有楽町にあるふるさと回帰支援センターでゲーム大会も企画しています。5月16日に開催される新潟産業大学・新潟工科大学の新入生歓迎会でもボードゲームの体験を検討しています。

プロジェクトチーム：このたび新潟県内で初かもしれないUターンボードゲームを柏崎で制作しました。遊びを通じて当市の魅力を発信しつつ、プレイした方がU・Iターンしたいと思えるきっかけとなることを目的としています。東京からスタートし、Uターンの後、柏崎で最高の住まい・仕事・家族・食・娯楽に出会うまでをシミュレーションするものとなっています。プロジェクトチームのメンバー全員がU・Iターン経験者です。また、テストプレイには、新潟工科大学・新潟産業大学・新潟病院附属看護学校の学生も参加し、こ

れから就職活動をするに当たってどのような内容であれば柏崎に来たいと思えるかという視点も盛り込まれています。実際に柏崎へU・Iターンを考えている方が集まる場でゲームをプレイしていただき、柏崎の新たな魅力を見つける、または忘れていた魅力を再発見していただくことを考えています。

たくさんの柏崎の魅力をこのボード、そしてカードを通して思い出していただき、または知っていただき、楽しみながら柏崎への思いを募らせてもらい、柏崎へのU・Iターンが増えることを期待しています。

(4) 47 都道府県を完全制覇 ー柏崎ファンクラブ会員 6,000 人突破

(主管：元気発信課)

ようやく 47 都道府県全てから柏崎ファンクラブにご入会をいただきました。柏崎シティセールス推進協議会の伊藤会長はじめ、多くの方々のご協力により 6,000 人を突破しました。市民会員の方が多い一方で、市外からも大変多くの方々から入会していただき、柏崎を応援していただいています。ふるさと納税にもお力添えをいただき、1 億 5,000 万円を突破しました。そういった意味でも柏崎ファンクラブ会員 6,000 人という数は柏崎市にとっては何物にも変えがたい財産であり、宝であると思っています。

(5) 2020 東京五輪に向けて ー柏崎で水球女子日本代表合宿、インターコンチネンタルカップに6選手が出場

(主管：水球のまち推進室)

4 月 15 日から水球日本代表選手の強化合宿が行われます。現在活躍中で柏崎出身の小出未来さんも参加を予定しています。市としても水球のまちとしてできる限りのバックアップをしているところであり、先般も潮風カップで初めてブルボンウォーターポロ女子が 3 位に入賞し、ますます東京オリンピックに向けてヒートアップしてきていると感じています。また、インターコンチネンタルカップにもブルボンウォーターポロクラブ柏崎から初めて日本代表入りする蔭田選手も含めて、過去最高の 6 選手が選出されました。セルビア、ベルグラードで開催されるワールドリーグスーパーファイナル出場も視野に入れながら今、男女ともに頑張っているところです。

(6) 4年ぶりに中国・淮安区との青少年交流 ー訪問団に参加する中学生を募集

(主管：商業観光課)

淮安区は西山ご出身の田中角栄先生とともに日中国交回復を実現した周恩来元首相のふるさとです。一昨年、淮安区で開催された周恩来元首相の生誕120周年のお祝いが開催され、ぜひお越しいただきたいという大変強い要請を受け、私もお招きをいただきました。いかに中国の方々がいまだ田中角栄先生に対して感謝の念をお持ちいただいているかということをお自身も実感したところです。その際、また中国と日本の子どもたちとの交流をというお話をいただき、今回4年ぶりに淮安区へ中学生の訪問団を送るため、参加する中学生の募集を行います。今回は卓球を中心としたスポーツ交流ということで話がまとまりつつあります。淮安区の皆さんの強い熱意もいただき、今回のかたちでの実現となったところです。

(7) 観光対策事業補助金 申請者を募集

(主管：商業観光課)

中越沖地震からもう12年が経過したところですが、中越沖地震復興基金の残余のものをこの観光振興に活用するものです。具体的には、今年度に限り、新たな観光の価値の創出などの取り組みを対象とした補助金を創設し、申請者を募集するものです。

暖かな季節になって参りましたが、週末にはコレクションビレッジの蚕の市、西山の桜祭りが開催されます。4月1日からは四つ蔵飲み鯛晩酌セットも始まりしました。今週の土曜日には、まちからで元気なまちづくり事業補助金事業成果報告会もありますので、取り上げていただければと思います。よろしくお願ひします。

2 質疑応答

◎みちレポかしわざきに関する質問

記者： みちレポかしわざきは一昨年に市役所内の業務改善発表会で発表されたものでは。

市長： はい。職員のアイデアを採用しました。

記者： みちレポかしわざきをどのような方法で周知していくのか。

市長： 情報提供に対してしっかり対応できるよう、まずは町内会長の皆さんに周知を行い、情報提供の推移を見ながら、広報かしわざきやホームページなどで徐々に周知していきます。

◎門出地区に関する質問

記者： 先ほどの話の中で改元に合わせた門出地区をPRしていくという話がありました。市長として具体的にどのようなことを考えているのか。

市長： せっかく明るいおめでたい地名ですので、改元に合わせて地酒や和紙、米などと組み合わせるかどうかと考えており、早急に話を詰めていきたいと思っています。

◎ボードゲームに関しての質問

記者： U・I ターン関係の応援ゲームは全国的、県内でみて初めての試みか。

プロジェクトチーム： 全国的にみて、シティセールスの取り組みの一つとしてボードゲームの制作事例はいくつかあります。ただ、目的をUターンに特化し、写真も内容も全て地元のを打ち出しつつ、本格的に遊べるものとしては初だと思えます。

記者： 発表が成人式ということになっていますが、今後、どこかで買えたりとか、誰でも気軽にできたりするような取り組みを考えているか。

市長：今回、4セットを制作しました。東京有楽町のふるさと回帰支援センターで常時設置する、または表参道・新潟館ネスパスでのイベントなどで活用できればと考えています。今後の活用状況に応じて追加制作は考えられます。

記者：ボードゲームは人生ゲームのように遊ぶものか。

プロジェクトチーム：3から4人で遊ぶもので、手持ちのカードを切る。山から補充するを繰り返しながら自分のコマを進める。特定のマスに止まるとイベントカードを引き、書かれている内容によって自分のコマを進めたり、他人のコマを戻したりしながら遊ぶボードゲームです。

◎観光対策事業補助金に関する質問

記者：予算も限られた事業だと思うが、具体的な想定される応募事業はあるか。

市長：タイミングの問題もありますが、あると思います。今年度限りですので、有効に使えるお金と捉えて、柔軟な発想を生かす使い方をしたいと思っています。

◎中国・淮安区との青少年交流に関する質問

記者：出発式や成果報告などを子どもたちが行う機会はあるか。

市長：帰国後の落ち着いた時期に必ずさせていただきます。

記者：中国との交流が途絶えた理由は。

市長：交流というかたちで中学生をお願いするのは、果たして、本当に中学生のためになっているのだろうかという疑問がありました。また、財政的なものを含めて、お休みさせていただいたというところです。

※参考：淮安区とは平成26年度（2014年度）、平成27年度（2015年度）に、峨眉山市とは平成28年度（2016年度）、平成29年度（2017年度）に交流を実施し、平成30年度（2018年度）の淮安区との交流は未実施

◎路線バスを活用した買物支援等の取り組みに関する質問

記者： 買い物サポートとは具体的にどこからどこまで高齢者をサポートするのか。

市長： 例えば、バスの乗り降りや座席に着席するまで、買い物は、レジでのお支払いまで支援を行うと思っています。

記者： 1回の試験運行で、どの程度利用客を見込んでいるか。

市長： 普段の柏崎谷根線の運行状況からみると、ほんの数人程度と思われます。この取り組みによってバス利用者の増加を期待しています。

記者： 1人の介助員が数人の介助を行うのか。

市長： そのように想定しています。

記者： 試験運行の周知は行うのか。

市長： 当然、路線バスの沿線の方々には、町内会などを通じて周知を行う予定です。

◎県議選に関する質問

記者： 4月7日（日曜日）は新潟県議会議員一般選挙の投開票日です。今回の選挙に対してどのようなことを期待しているか。

市長： 少子高齢化への対応がメインテーマだと考えていますが、柏崎市に関してみれば、原

子力発電所や柏崎の産業の今後のあり方を明確に有権者にお示しいただきたいと思っています。

◎新元号に関する質問

記者： 先日発表された新元号に対する市長の感想を。

市長： 見た印象も文字の意味も含め、非常に素晴らしい元号だと、一市民として、一国民としても非常に喜んでいきます。

◎原発に関する質問

記者： 原子力政策、廃炉に関する検証などに関して、進展も含め昨年度を振り返りながら今年度の展望を。

市長： この1年間に関しては、まず何回か、東京電力の社長や担当とも意見交換をしてきました。昨年2月には、世耕経産大臣とも面会し、お話しをしました。今年の2月には内閣府に伺い、降雪時の避難経路の検証作業結果を踏まえた、実効性ある避難計画に対する柏崎市長としての意見を内閣府に届けました。再稼働や避難計画の問題に関しても、率直な意見交換を重ねてきたと思っています。東京電力に関しては、使用済み核燃料税に対してなかなか理解を得られません。しかしながら、施政方針演説の中で、必ず実現させると断言しました。このことは東京電力の幹部にも伝えました。私の意思は変わりません。そして、担当者に30年前に1号機で使った使用済み核燃料が、現在もサイト内プールにあるというのは、常識的に考えてもおかしいと思いませんかと申し上げました。国の核燃料サイクルを進めるという意味で私は、この経年累進課税化を必ず実現させると意志を固めているところです。県との関係に関しては、昨年、花角知事が就任され、3つの検証に対する私の率直な考え方を伝えました。もちろん、100パーセント受け入れていただいた訳ではありませんが、検証のスピードがアップしました。そして、これまで申し上げてきた避難指針ではなく避難計画にすべきという点についても、地元の意見も聞いていただき、ようやく今回避難計画として出来上がると承知しています。そういった意味で花角知事とも率直な意見交換を行いながら、前に

進んでいると考えています。今後は、6月末までに東京電力から、1号機から5号機までの廃炉計画が提出されます。その計画を見ながら、新たな条件を更に付与するかしないか、そして使用済み核燃料税の経年累進課税化の問題をどのように考えるか。また、国に求めている原子力災害対策特別措置法改正に関しては、全原協とも足並みをそろえながら求めていきたいと考えています。県に対しては、先ほど申し上げた3つの検証を、ペースアップしながら、なおかつ、充実した検証を進めていただきながら、より早い検証の終了を待つところです。

記者： 県が行っている検証のスピードアップを評価されているが、国の進捗状況をどのように捉えているか。

市長： 8号線のバイパスは、就任直後、いつできるか分からないと言われていました。しかし、一昨年は、石井国土交通大臣。昨年は、道路局長に細田先生含め与党の方々から同乗をしていただき、8号線バイパスの位置付け、そして目途をお聞かせいただきました。5、6年ぐらいで全線の供用開始が期待できるところまで進んできました。今後は、重要な避難経路でもある353号線、252号線、291号線の国道の整備、改良を、国に対して、一層強く働きかけていきたいと考えています。

記者： 国も進んでいるということですか。

市長： 目に見えて進んでいる部分もありますし、まだというのもあります。まだという部分に関しては、先ほど申し上げました原子力災害対策特別措置法の改正を求めるという部分です。なぜ求めているのかと、現在、国は事業者にやらせていますが、まずは国の責務が先で、その後に、事業者の責務だろうと。なぜなら、まだ東京電力の株の54パーセントは、原子力損害賠償・廃炉等支援機構が持っている、つまり国です。そのような現状において、現在の原子力災害対策特別措置法第3条が事業者の責務です。第4条が国の責務。ここが私はおかしいと。原子力政策に関しては、国が財源措置も含めて全面にでるべきだということ象徴的に申し上げている部分がこの原子力災害対策特別措置法の改正です。まだまだ国は、気持ち、お考えをのせていただけていないと思っています。

記者： 昨日、県が正式に避難計画の策定を発表した。市長の受け止め方は。

市長： 私どもの意見を取り入れていただいた部分も多くありますが、まだまだ、改善するべき点もあるだろうと思います。これは、知事も更にブラッシュアップしていくという発言が重ねてありますので、私は、知事の考えを信じますし、支持します。今後も率直な意見を県に伝え、県からも取り上げていただいて、避難計画がブラッシュアップしていくものと期待しています。

以上